

令和6年度天皇杯受賞者受賞理由概要
園芸部門

産地一体となった新規就農者の確保により「百年産地」を目指す

○氏名又は名称 JA 会津よつば昭和かすみ草部会（代表 立川 幸一）

○所在地 福島県大沼郡昭和村

○出品財 経営（宿根かすみそう）

○受賞理由

・地域の概要

宿根かすみそうの生産に取り組む昭和村、柳津町、三島町、金山町は、「奥会津」と呼ばれる福島県南西部の標高300～750mに位置している。高冷地で、冬季は積雪が2mを超える特別豪雪地帯であり、夏でも冷涼な気候を活かした宿根かすみそうの栽培が、地域の基幹産業となっている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

宿根かすみそうは、昭和50年頃から葉たばこに代わる換金作物として生産が開始されて以降、販売額を増加させてきたが、当初は2つあった生産者組織が平成27年に本部会に統合されて以降、雪を利用した集出荷貯蔵施設（雪室）の機能強化やGI取得などによりブランド力を強化するとともに、新規就農者を継続的に確保することで生産本数が増加し、販売金額も大きく増加させている。

・受賞者の特色

（1）新規就農者の確保

JA 会津よつば昭和かすみ草部会では、栽培技術の習得支援と併せて、部会員や地域住民とのネットワーク構築等も支援することで、県内外からの新規就農希望者を継続的に確保できているだけでなく、就農後の高い定着率も誇っている。また、これまでに移住してきた既就農者が新規就農者の支援・指導に当たることで、担い手確保・育成の好循環が生まれている。

（2）地域条件を生かした技術

特別豪雪地帯という特徴を活かし、雪を利用した集出荷貯蔵施設（雪室）を整備し、夏季の予冷や貯蔵に活用することで、安定した品質で市場に出荷できる体制を構築している。また、標高の異なる圃場での栽培を組み合わせることで、市場の需要に合わせた長期安定出荷を実現し、夏秋産地としてのブランド力及び信頼力向上、有利販売につなげている。

・普及性と今後の発展方向

宿根かすみそうは、農作物として販売されるだけでなく、新たな雇用を生む産業として、地域外からの若者の定着にも寄与しており、地域活性化に大きな役割を担うに至っている。今後も宿根かすみそう産地として、地域の振興・活性化に貢献するため「百年産地」が実現できるよう地域の関係機関と一体となった活動を永続的に展開していきたいと考えている。